

## 2024年シーズンのシナジス投与スケジュールに関する勧奨

日本小児科学会  
神奈川県地方会 会員 各位

日本小児科学会神奈川県地方会感染症小委員会  
清水 博之、勝田 友博、今川 智之  
日本小児科学会神奈川県地方会幹事代表  
伊藤 秀一  
2024年01月23日

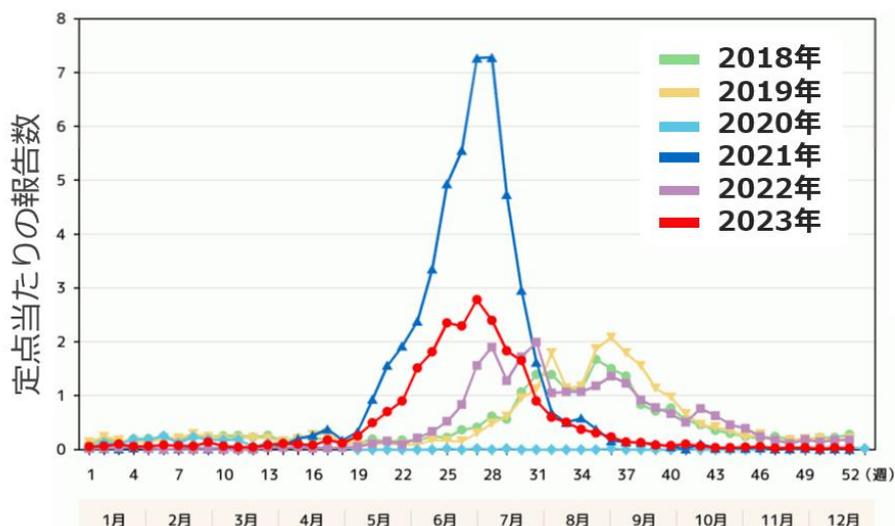
平素より地方会の運営にご協力いただきましてありがとうございます。昨年に引き続き、次シーズン(2024年シーズン)のシナジス投与開始時期に関する勧奨を通知させていただきます。

RSVは流行季節が大きく変動しています。2020年はコロナ禍における感染対策意識の向上により流行しませんでした。2021年は過去最大の流行を夏に経験しました。そして2022年、2023年とも春から夏にかけて流行のピークが見られました。

シナジス投与スケジュールに関して、各医療機関において柔軟な対応ができるよう地方会感染症小委員会より毎年勧奨をおこなっており、2023年シーズンは4月から11月を標準投与期間(概ね8回)として勧奨させていただきました。重症RSV感染症を予防するためには、流行が始まる前にはシナジス投与を開始し、流行期間中は抗体を維持する必要があります。地方会感染症小委員会としては、昨年と同時期の流行開始を想定し、引き続き4月から11月を標準投与期間(概ね8回)として勧奨させていただきます。投与開始の時点でシナジス適応を満たしていること、上記の標準投与期間以外(12月から3月)での投与は、地域での流行状況や児の重症化リスクを勘案し、症例毎に投与の妥当性を判断し、その理由等に関するコメントもしくは症状詳記の記載をお願いします。また添付文書上のシナジス適応に反する投与を回避するため、原則として3月は非投与期間とします。3月に投与する場合は、特にその必要性のコメントもしくは症状詳記の記載をした上で、昨シーズンに引き続き4月も連続して投与する際には「今シーズン1回目」と記載して改めて適応の有無をご確認ください。

海外では半減期の長い抗RSウイルスヒトモノクローナル抗体製剤であるnirsevimabの流通が開始されており、国内においても2023年2月に製薬メーカーから製造販売承認申請が提出されていますが、国内では未承認であり安定流通にも一定の時間を要する見込みであることから、今シーズンは例年通りシナジス(palivizumab)の使用を継続することを推奨します。

## 神奈川県定点報告数の推移



以上の方策は外来枠、人員確保の問題もあるため強制ではありません。最終的には各医療機関、各症例に応じてご判断いただければと思います。また神奈川県での方策の効果を評価することを目的として、後日 RSV 入院実態調査(アンケート調査)をおこなう予定です。結果は地方会でも報告させていただきますので、是非ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

併せて、ご参考までにレセプト記載の要綱として注意点を下記に示します。

- 4月から11月までを標準的なシナジス投与期間とします。これ以外の期間においては流行状況や重症化リスクに応じて投与の妥当性を判断し、投与理由のコメントもしくは症状詳記を必ず記載のうえ請求してください。
- 初回投与時に適応であれば、そのシーズン終了まで(3月は除く)は継続して月1回の投与は認められますが、毎月のレセプトには必ず初回投与日とその日の月齢の記載を徹底してください。
- 毎月のレセプトに必ず記載していただきたい事項
  - ✓ 適応症名
  - ✓ 初回投与日および初回投与日の月齢
  - ✓ 今回投与日
  - ✓ 通算投与回数
  - ✓ 投与量(シナジス 1回投与量 体重(kg)×15 mg/kg÷100 mg/mL)
  - ✓ 体重

<この件に関するお問い合わせ先>

日本小児科学会神奈川県地方会 感染症小委員会

清水博之 hiroyuki@yokohama-cu.ac.jp

勝田友博 katsuta-7-@marianna-u.ac.jp

今川智之 timagawa@gmail.com